

図書館たより

号数 第54号
発行日 昭和57年2月25日
編集行 島根県立図書館
松江市内中原町52
TEL (0852) 22-5725
印刷 渡部印刷株式会社

4月当初より、第Ⅱ期読書普及モデル市町村の活動が6町村において開始されました。親子読書と地区配本を軸とする幼児期からの読書と、いつでも、だれでも読書できる環境づくりがねらいです。これにより、地域ぐるみの活動が着々と進められています。その具体的な内容を紹介します。

島根町

島根町において親子読書活動を始めて、今年は2年目になります。最初の年（55年度）は、公民館事業の一環として、町内3地区ある1地区を選んで活動を始めました。親子読書活動を近い将来、全町へ展開する計画をしていたところへ、県立図書館よりモデル指定を受けた訳です。

現在、5ヶ所の保育所と2館の公民館で読み聞かせ用の図書を貸し出しています。保育所では、週1冊子どもが選んで帰ります。公民館ではより本を求める親と、小学生への読み聞かせを要求している親へ対応し推進しています。

モデル指定を受けて半年が過ぎ、親子読書講演会が終ったので、今までの状況把握と今後の対策の資料にするために、保育所の母親199人を対象にして、11月中旬アンケートを実施しました。回答者163人で回収率は82%でした。アンケートの結果、大多数の人が次のような感想を書いています。一部の声を紹介しますと、「はじめの内は、ちょっと面倒だなと思ったりましたが、毎日読みながら“次はどんな本を借りて帰るかな”と、親も楽しみの毎日です」。また「生活のリズムも決まって親子のふれあいができる、それに今まで関心のなかった私までが、絵本の楽しさにひかれ、時間のあいている限り、毎日読んでやるよう努力しています。機会を設けてくださって感謝しています」。このように、読書活動自体は高い評価を受けています。

しかしながら、今後の課題は数多くあり、ここでは中心的な課題について述べます。アンケートの結果、よく読み聞かせをしている親は41%であり、他の59%は、週2~3日また1日以下の状況です。この59%の親への対策が急務です。この活動の理解・認識を深化するための方策を見つけ出し、意識を高めることが重要な課題です。

日原町

町立図書館に移行して2年、県立図書館の指導のもとに読書普及活動を実施し、今年度はモデル市町村設置事業の指定を受け、より一層地域住民に対する読書普及のサービス活動を実施することになりました。本町では、親子読書活動、配本所設置事業、読書会の育成の三つを重点として、計画を進めておりますが、本町の親子読書の概要についてのべてみます。

親子読書は、町内の保育園と協議し、今年度の保育方針のひとつに加えていただき、日原・青原保育園で実施することになりました。

方法 各保育園ごとに絵本の設置。

(日原保育園 340冊、青原保育園 170冊)
毎週金曜日に子供が自由に選んで持ち帰り
毎週火曜日返却をすることにし、就寝前10分~15分間家族が読み聞かせをする。

研修 指導者研修は、保母さんを対象に5月、9月に実施、保護者研修は7月、11月に実施し、親子読書の意義と実践を中心テーマに研修をし、実施しているところである。

対象者 日原保育園 120名、青原保育園 40名。

問題点 保護者の読書に対する意義の啓発。

教委担当者、図書館職員、保母等の研修強化の必要性。

図書の整備。

課題 母親同志のつながりに欠ける点もみられ、母親同志のグループ学習を推進するため、家庭教育学級の併用を考え、母親の学習への動機づけとする必要がある。

町独自の読書活動指導員の設置の必要性。

町全体への読書普及活動のひろがりをもとめる。

弥栄村

今年度よりモデル市町村の指定を受けて、親子読書普及活動に取り組んでいます。

弥栄村では、昭和53年度に県立図書館からアドバイスを受けて、幼児向けの本230冊を購入し、安城・杵束の二つの保育所に配本を行ない親子読書活動がスタートしました。子どもたちの身近かな所に本を置いて、自分で好きな本を選べるようにということを配本を行ない、貸し出し等については保育所の先生方の協力のもとに行ってきました。

今年度は、昨年度購入した約350冊のうちの150冊と県立図書館よりの170冊を配本し、研修会も事前、導入、中間と保育所の先生やお母さん方を対象に、県立図書館に協力いただいて開催しました。11月には佐藤英和先生（こぐま社社長）を招いての親子読書講演会も開催することができました。

保育所の方でも取り組んでいただき、子どもの年令や読書傾向に合わせて先生方がいろいろな工夫をされています。A先生は年少組の担任で、年度当初は絵を見せて徐々にストーリーのあるものに。

B先生は年長組の担任で、家庭で読んでもらえなかった子どもには、先生が保育所で。C先生は、子どもたちが借りて帰った本のなかから一冊を選んで、週に一度子どもたち全員に読み聞かせの時間を作り、子どもたちに絵本に関心を持たせる。これら先生方の協力なしでは推進できなかったと思われます。

また家庭では、仕事の合間にねってお母さんやお父さんが交替で、子どものくり返しの請求に答えたり、夜読めなかった場合には翌朝読み聞かせをしている家庭もあるそうです。

親子読書も4年目を迎え、ある程度は定着したようですが、本の選択や子どもの個人差など問題点もあり、これに対応すべく研修を重ねていかなくてはなりません。また、保育所を出た子どもが、本に親しむことができるよう、図書センターの充実も合せて行なう予定です。

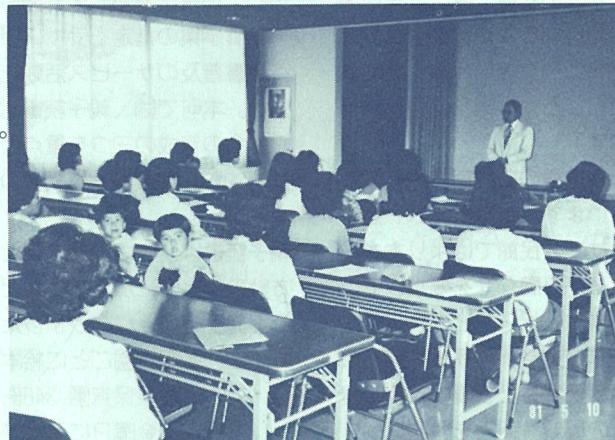
石見町

（親子読書）

本年4月、読書普及活動振興モデル町の指定を受けて、町内4つの保育所の児童と保護者を対象に親子読書の推進に取り組んでいます。

児童数267名に対し、県立図書館より絵本330冊を借入して配本したが、7月には更に170冊の絵本を購入して配本した。

保育所では、児童たちが木曜日を待って自分で本を選び出して借りて帰っている。翌週火曜日に返本している。ほとんどの児童が楽しみにして借り出しているし、母親も今日はどんな本を借りて帰るかと楽しみにしている。「個人ではとてもこんなに本を買うことはできないが、立派な本をたくさん借りられてありがたい。忙しい中から子どもにひかれで読書を続けているが、これからもずっと続けたいと思う。」という声が高い。家では母親や父親をはじめ、祖父母、兄姉たちが読み聞かせ役として熱心にとり組んでいる。近く配本の取りかえや、増配も考えている。



親子読書研修会

（研修活動）

5月23日 事前指導（西山主幹 山野辺司書）

7月4日 母親へのオリエンテーション

（西山主幹）

9月24日 中間指導（林館長 西山主幹 北司書）

11月9日 親子読書講演会

（佐藤講師 西山主幹 山野辺司書）

2月17日 まとめの研修（木佐主幹）

各講師の熱心なご指導に、保護者、職員ともに強い感銘を受け、親子読書への認識と意欲を深めている。

（公民館への配本活動）

4つの地区公民館に1,000冊の図書を分配しているが、分配した場合1館200～300冊では利用に不十分であり、今後考えなおす必要を感じている。本館の充実と、広報活動の強化による読書普及を目指したい。

伯太町

町内4ヶ所にある保育所の保母を中心とした、親子読書の研究活動が5、6年以前から非常に熱心に行なわれており、その成果が逐次現われ始めた頃、県立図書館より借用の3ヶ月1回の巡回図書がうまくかみ合った格好となって、親子読書の輪が急激に広がり始めていた。

本年4月、モデル市町村に指定され、研修年次計画が示されたのであるが、事前研修、導入指導、中間研修と、図書館のお世話をいただく事ばかりで、何とは無しに過して來たのである。親子読書の重要性は充分痛感しながらも、種々雑多な仕事に追われ、これを積極的に押し進めるだけの熱意がどうしてもわいて来なかつた。しかし県から派遣いただいた講師の方々の適切な指導と、これを受入れる側の熱意が、研修の度に盛り上つていった。特に各保育所ごとに行なわれた導入指導後の意識の向上には目を見張るものがあり、10月の中央講師の講演会には、大変な感動を覚え、絶大な効果を上げる事が出来たのである。「私の

家で先日こんな本を読

んで聞かせたらとても子供が感動した。貴方の所ではこの本読んであげられましたか。」母親同志の平素の会話の中に、これまでとても思いも及ばなかつたこんな言葉を聞く事が出来る様になつたのである。まとめの過程で、どのような討議がなされるのか、大きな期待に胸がふくらんで来る。

保育所を中心とした親子読書は順調に広がり始めた。だが小学校の段階に入ると、どうした事かぱつりとこの糸が切れてしまう様に思われてならない。何とかこの原因を究明し、関係各位の協力を願いながら、問題を解決して行きたいものと考えている。読み聞かせから読書好きの子供へ、読書好きの子供から読書好きの大への道を切り開くべく、ささやかな努力を続けなければならないと思う。親子読書の意義を自覚し、熱意を示す人々の為にも。

（このページは、おもむろに書かれていたので、本文と少しあまり合いません。）

（この表は、もとで見送り実行で発送書類の内訳）



親子読書研修会

多伎町

豊かな人間性を育てるにはどのようにしたらよいか～親子読書（読み聞かせ）を中心に～

—56年度町教研幼稚園部会研究主題について—

母親も教師も幼児を育てるにあたって、多忙を絶えず全面に掲げる限り、豊かな人間性はすぐすぐと育たない。問いかける幼児に対応して幼児の欲求を満たしてやる懸命な努力のかけに豊かな人間性は花開くと思う。育てる者は、このことを自覚して1日のうち10分間、ゆとりある心境を自ら作り、よい絵本をゆっくり読んで、ゆっくり見せて、そしてゆっくり考えさせ、その中で幼児の問いかけやつぶやきにうなづいてやり、幼児の心の中に楽しみをたっぷりしみこませたい願いをこめて研究主題を設定した。

研究の仮説 1. 親子の心のふれあいが深まる。

2. 「きく、みる、考える。」営みによる集中力。

3. 幼児の柔軟な頭脳の刺激「感受性・想像力育成」

4. 本格的な読書の基礎能力を培い読書好きになる。

実践過程 54年度＝

町内3幼稚園、家庭教育学級に親子読書をとり入れたところ、大反響があった。

55年度＝町内小学校低学年にも輪が広がり、河南部小学校2年部の共同研究へと進み、幼小でのこの1年間の成果の交流は、推進に大きな力となった。

56年度＝モデル市町村の指定を受け、学校、幼稚園、家庭教育学級での定着、充実、発展へと努力している。本年度実践の特徴は、園内読み聞かせを從来以上に教育課程にもセッテし研究的に実践した。家庭での読み聞かせ理解につながり、落ちこぼれる母親への勇気づけを生み、家庭と園の両輪での読み聞かせにより更に質の深まりをねらつたものである。

考察と成果 幼児は五官を働かせて「ことば」を聞き「絵」を見ている。また幼児の生活体験を結びつけて、時にはゼスチュア入りで反応する。これこそ幼児の柔軟な頭脳が適度に刺激され、感受性がゆさぶられ、イメージを広げ想像力を育てる。その一時一時こそが、豊かな人間性を培うことと確信する。

県立図書館協議会（議長 宗寂照氏）から

「島根県における図書館サービス網の拡充方策について」の提言をうける。

かねて図書館長から検討を依頼していましたが、協議会では小委員会を設け、数度の協議を重ねられた結果、以下のような提言を行われました。当館はこれにもとづき提言の具体化に努めます。

昭和56年8月31日、本協議会に依頼のあったこのことについて協議した結果、次のとおり提言します。

1.はじめに

島根県教育委員会は、昭和54年、「島根県読書普及振興計画」(昭和54年～昭和60年)を策定し、昭和60年を目指して、図書館未設置市町村の解消、市町村における読書普及活動の推進に努めるとともに、県立図書館の機能の強化を図ってきている。

特に、市町村図書館設置の促進は、図書センター制度により着実に成果をあげつつあり、昭和55年から56年にかけて、図書センターの中から4町に公共図書館が設置され、市町村立図書館の設置率は17.8%となり、そのサービス圏は県人口の50%をカバーするに至った。

また、図書センターの活動状況は全般的に非常に活発であり、昭和60年までには、これら図書センター及び松江市・平田市などを含む10市町村以上において図書館の新設が期待され、市町村立図書館によるサービス圏は、県人口の70%以上をカバーすると思われる。

以上の状況をふまえ、「振興計画」の実施と並行して、県立図書館は、市町村立図書館（公民館図書室を含む。）の中心となって、サービス網を整備し、県民がどこに住んでいても、市町村立図書館を通じて、県立図書館のサービスを平等に受けられる体制を整備しなければならない。

そのため、本協議会では、市町村立図書館に対して、どのような指導・援助を行えば、もっとも効果的なサービス網を形成することができるかについて、検討を重ねてきた。

その結果、まず、全市町村に図書館が設置され、充実されることが先決であり、その上に、将来は

石見及び隠岐に県立図書館または分館を設置して、県立図書館を主軸とする、市町村立図書館を結ぶサービス網が形成されることが望ましいと考える。

このような長期的展望をふまえて、当面の実施可能な方策として、次のように提言する。

2.当面の方策

(1) 県立図書館西部読書普及センターの設置

現在計画されている県立石見教育センター（仮称）に併せて、県立図書館西部読書普及センター（以下「読書普及センター」という）を設置し、それを拠点として、県西部市町村読書施設に対し、指導・援助及び育成を行うものとする。

ア. 読書普及センターの機能

ア) 読書施設への資料援助と育成強化

イ) 読書普及活動の指導助言

ウ) 県移動図書館車巡回のための資料補給基地

イ. 読書普及センターの規模

以上の機能を果すために必要な資料と人員を配置する。

(2) 圏域中核図書館の指定

一定圏域に中核となる公立図書館を指定し、これを強化して県立図書館の補完的機能を持たせ、圏域内読書施設との連携によるサービス網を形成するよう指導する。

ア. 圏域中核図書館の指定は、実施可能な地域から行うこととし、そのために、広域図書館運営協議会（仮称）等の設置を指導して、機運の醸成を図る。

イ. 県立図書館は圏域中核図書館に対して、資料の大量貸出、職員研修会等を実施するほか、配本車購入費補助、職員の派遣等の援助についても検討する。

ウ. 圏域中核図書館は豊富な蔵書量を保有し、圏域内読書施設に資料援助を行う。

エ. 圏域中核図書館は県立図書館とともに、圏域内の読書施設が充実発展するよう努める。

親子読書講演会開催

その記録から

当館では、昨年に引き続き本年度も親子読書をテーマに松江市、島根町、伯太町、多伎町および日原町、弥栄村、石見町において昨年11月に講演会を催しました。講師は、幼児と文学研究所所長、佐藤宗夫、こぐま社社長、佐藤英和の両氏で、それぞれの立場から「親子のふれあい」についての示唆に富んだ話があり、盛会のうちに終えることができました。人間形成に欠くことのできない読書は、幼少期に習慣づけることが最も重要であるといわれています。親子読書という素晴らしい読書活動に、家庭で、図書館で、学校でそれぞれの立場で積極的にとりくんでいただきたいと、講演の要旨を紹介します。

子どもの心を育てる —子どもに読書のたのしみを— 佐藤宗夫

●子どもに読書の楽しみを　—イメージを豊かに—

青少年の読書離れの傾向と、現在マスコミを賑わしている中・高生の家庭内、校内暴力等の現象が無縁のものではないことを考える時、子どもたちの前途に危機感を覚えずにはいられません。人間が他の動物たちがうのは読書することであり、読書によって人間らしい情緒・思考・判断が育ってきます。

青少年の読書離れは、幼児期に読書の喜びを与えなかったおとなとの責任です。幼児は文字を読む以前に、耳から聞くことばによって自分なりのイメージを生み出して楽しむ能力を身につけます。こうした経験のない子どもは文字が読めるようになってもイメージを描くことができないので読書の楽しみがなく読書ぎらいになります。幼児期に読み聞かせの楽しみを体験させることが子育ての基盤です。

●子どもは絵を読む　—絵本の吟味を—

幼児は耳からリズミカルな言葉を聞きながら絵をじっと見て、登場人物の表情や心情、動き、場面の雰囲気など、ことばに表現されていないものまで実際に豊かに読みとります。これは幼児が自分の生活体験と結びながら登場人物に語りかけたり共感したりしてイメージをふくらませ、そのファンタジーの世界の中で自由に遊ぶことのできる特性をもっているからです。この期に、たくさんよい絵本と出会わせて彼らの生活体験を生き生きと豊かにさせていくことが大切です。(事例紹介「ぐりとぐら」ほか多数)

●親子でともに楽しむ　—子どもの心に宝の芽を—

子どもにすすめたい本は、お母さん自身がまず読んで楽しむこと、その楽しみを子どもと共有することです。親子の間に楽しい共通の話題がかわされるそのふれあいの中で、子どもの心は開かれ、優しい思いやりや自立するたくましさが芽づきます。これは人間としての生き方にかかわってきます。子どもの中にこうした宝の種を播くのが母親のつとめではないでしょうか。宝の種は本の中にあるのです。

本によって育てられる大切なものの —子どもと読書— 佐藤英和

●本によって育てられる大切なもの

子どもが自分で活字の本が読めるようになるには、次の三つの過程を経ることが大切です。

①聞く耳を育てる

本を読むことの第一の条件は、耳から聞く言葉を理解することです。文字が読めることが本を読むことではありません。元来文字、本がある以前に昔話があり、耳から言葉を充分に聞いたわけです。本を読む子に育てたいと願うならばまず母親が人格をもった言葉でお話を聞かせることです。

②絵本の絵を読む

絵本は子どもがはじめて使う本です。字を読めない子どもは、絵本の場面と場面とを結びつけて次の場面を想像して物語を読みとります。それは絵が言葉の役割を果たし、物語を語っているからです。

絵本の中で、期待したり、ハラハラしながらお話を聞き絵を読み、想像する楽しみが、本を読んでいくことの原動力となります。

③文字という記号でお話を読む

くり返しきり返しお話を聞き、本を読んでもらうことによりはじめて本の中におもしろい世界、楽しい世界を見出します。

このように順番を変えることのできない過程を経た子どもは、活字が読めるようになったら必ず本を楽しむことができます。

お話を沢山聞き、絵本を楽しむという経験をした子どもは、生長していく過程で様々な体験をした時人生に対して勇気・信頼・希望をもつことができます。

今こそ、少しの時間をさき良いお話を読んでやる子ども自身の良い本に手を出そうとする力と、良い絵本の子どもに訴える力とを出合させてやらねばなりません。

図書館のカウンターには、利用者から資料に関するさまざまな質問が寄せられます。電話や手紙によっても受けつけています。内容は、資料の所蔵の有無を聞く簡単なものから、時事的なもの、人名、地名に関するもの、郷土史に關係するもの、また調査を伴うかなりこみいいた質問など種々雑多です。それらの質問に対して、的確な資料を探す手助けをし、場合によっては必要な情報を検索し提供する仕事を図書館では調査相談業務、またはレファレンスと呼んでいます。つまり、図書館を利用される方々と図書館の資料を結びつける作業のことをいいます。

日常生活上のちょっとした疑問、調査研究上の疑問、仕事に必要な情報を求めるといった調べものの経験は誰にでもあることです。そんな時、身边にある資料によって解決すれば良いのですが、そうでない方が多いようです。また、必要な資料ができるだけ早く、正確に、無駄なく見つけ出したいものです。

図書館では、こうした情報をとり出すためだけの図書、たとえば百科事典、哲学辞典・生物学辞典といった各分野の事典辞典、各種の年鑑、白書や統計や統計書、さらに索引、年表、書誌、目録、全国の電話帳などを一か所に集めて整備し、利用者の方々には自由に使っていただいています。また、郷土資料や、一般の家庭では保存しにくい過去の新聞、新聞縮刷版なども調査研究用として多くの方々に利用されています。もちろん、必要な情報はこうした資料だけでなく、一般的の図書や雑誌のなかにあることもあります。ぼう大な図書館資料のなかから必要なものを探し出すことは大変なことです。また参考図書のなかには、とくに索引や書誌・目録類には使い方にコツがあったり、慣れていないと利用しにくいものもあります。そんな時には、図書館の職員にお気軽にご相談いただきたいものです。できる限りお

手伝いいたします。

レファレンスとして実際に扱った事例を紹介しますと、「佐藤尚武という外交官が駐仏大使に任命された年月日を調べたい」という利用者が来館されたことがあります。佐藤尚武という人について、その方も私どもも詳しい知識は全くありません。現存の人物なのか、最近のことなのか古いことなのかも判明しません。そこで、一応最も詳しいといわれる『日本本人名大事典（平凡社・全7巻）』を引いてみました。たまたまこの人についての記載があり略歴がわかりましたが、現存の方でしかも最近の駐仏大使ならば『職員録（大蔵省印刷局）』を最新版から遡って調べなければなりません。略歴により昭和7年頃に駐仏大使になっていることは判明しましたが、正確な日付まではわかりません。こうした場合には『索引政治経済大年表（東洋経済新報社・全4巻）』という詳しくて便利な資料があり、任命月日を調べることができます。さらに当時の新聞や官報でこれを確認すれば確実です。

資料的な制約もあり、現実には当館での的確な資料を見つけることができない場合もあります。そんなときでも、国立国会図書館をはじめ全国の公共図書館・大学図書館などの協力を得て調査することもあります。

調査相談業務（レファレンス業務）は、県立図書館のサービス機能のなかで、今後ますます大きな比重を占めるようになります。これに対応するため、資料の充実をはかり職員の研修に努めるとともに、コンピューターを利用した情報検索についても実施を前提として調査研究中です。

〈日本海の遠き島より〉・〈夢誘う山陽・山陰〉・〈古城とヘルン〉・〈山陰の鯉の町〉・〈神々のふる里〉こんなキャッチフレーズで、美しいカラー写真と平易な文章でつづったふるさとの本が、最近よく出版されています。ディスカバー・ジャパンの波にのって、ふるさと指向が生み出した本なのかもしれません。ふるさとを離れて、都会の雑踏で暮らす人々にとって、自分の生まれ育ったふるさとは、安らぎの世界にちがいありません。この種の本には、カラー写真に叙情的な隨筆、平易な解説文を添えて、ふるさとの山や川、街道や社寺、味覚などが紹介され、読んで楽しめることをねらっています。版型もB5版と普通の本より大きめに作り、手にとって見やすいように工夫されています。もちろん、地方に住む私たちにとっても、ふるさとを見直す意味で、興味ある本といえます。

ふるさと指向をかきたてるこれらの本は多くの場合、単行本でなく、シリーズの形で出版されています。日本全国を8~10地方に分け、それぞれの地方にピッタリするようなキャッチフレーズが付けられています。

昨年1年間で、ふるさと島根を紹介したこの種の本は、以下にあげるように5冊出版されています。それぞれとりあげる対象をかえ、角度をかえて、ふるさと島根のもつロマン性を描きだそうとしています。緑の山脈、碧い海、ひなびた田舎、森厳な古社、歴史を秘める史蹟などが、レンズを通して生きづいています。

県立図書館にはすべて備えており、貸出もししています。

◎『日本の城下町 9 中国』ぎょうせい刊。全15巻。

中国地方の城下町の紹介。島根県下は松江・津和野・益田がカラー写真で載り、エッセーは津和野と松江、解説は広瀬と浜田の各城下が収録され

ています。執筆陣は尾崎秀樹、南篠範夫、原田伴彦、藤沢秀晴等。城下町に視点をそえて、歴史と伝統を浮き彫りにしてあります。

◎『探訪日本の古寺 14 山陽・山陰』小学館刊。全15巻。

県内の古寺は、月照寺・雲樹寺・清水寺・鰐渕寺・一畠寺・万福寺・永明寺・医光寺の各寺がカラー写真で載り、古寺めぐりとして出雲、石見の古寺の解説があります。その他、河野多恵子の清水寺・鰐渕寺訪問のエッセー。カラー写真、古寺めぐりの解説は藤岡大拙。巻末の名刹リストも便利です。

◎『夢誘う山陽山陰』集英社刊。〈日本の街道全8巻〉のうち第6巻。山陽路・吉備路・安芸路・出雲路・長門路の5篇。この本は従来よく区別けされる県別の編集でなく、街道を辿ることによって、人為的に別けられた地域を超越して、歴史をさぐり、人々の営みと忘れ去られる自然にアプローチをしています。

◎『探訪神々のふる里 3 出雲と瀬戸内の神々』小学館刊。全10巻。

山の神・海の神・豊作の神などなど、日本人の心にいまも生きている神々と、そのふる里を探るシリーズのうち、出雲と隠岐の神々とその信仰、芸能について触れてあります。執筆者は上田正昭、本田安次、秦恒平、加藤義成、石塚尊俊等。

巻末の神社めぐり、神々の祭りも参考になります。

◎『ポートロマン港の詩 4 日本海の遠き島より』講談社刊。全6巻。

日本海沿岸の北陸・山陰の港まち篇。黒ずんで見えるほど青く澄んだ裏日本の海をひかえた港まちにスポットをあてています。県下の港は「風紋と海」の道の題で、隠岐・境港・浜田が紹介され、それに文学散歩と味覚紹介、方言考などおりこんでいます。楠田枝里子・見城美栄子のエッセー。



しろくまちゃんのほっこり一休

わかやまけん 絵・文

こぐま社 500円

しろくまちゃんはお母さんと一緒にホットケーキをつくった。材料をそろえてフライパンで焼く。

ふつぶつ、ふくふく、くんくん、はいできあがり。こぐまちゃんと仲良く食べて、後はおかづけ。

絵は、だいだい色、黄色を主とした明るい色調と明確な線でわかりやすい。食べることの大好きな子どもたちにとっては、特にほっこり一休でのきあがる過程が楽しい。



おおきなかぶ

内田莉莎子再話 佐藤忠良画

福音館書店 480円

おじいさんがかぶを植えるとスクスク育ってとつもなく大きなかぶになる。おじいさんがひとりでは抜けず、おばあさん、まご、犬、ネコ、ネズミが次々と手伝ってやっと抜けた。

「うんとこしょ、どっこいしょ……」というくり

こ
ど
も
の
本
9

返しのおもしろさには定評があるロシアの昔話。絵は、一場面一場面ていねいに力強く描いてあり、水彩の色が美しい。

かさじどう

瀬田貞二再話 赤羽末吉画

福音館書店 480円

大みそかの日、貧しいかさ売りのおじいさんが町で売れなかったかさを持って帰る途中、雪をかぶった六地蔵さまが気の毒になり、売り物のかさ5つと自分のかさをかぶせてくる。あくる元日の朝、六地蔵さまがもち米を届けに来た。

見開き一ぱいの扇形の中に描かれた淡彩な墨絵が日本の昔話によくあっている。

おりょうりとうさん

さとうわきこ作

フレーベル館 880円

おやすみの日、お父さんがカレーライスを作ることになった。ところがおなべや、包丁、じゃがいも、肉、お母さん、子どもも逃げてしまう。そこで、とあみでパッとつかまえて作ったカレーライスは大変おいしくて人気があった。

平素、料理を作らないお父さんが子どもの好きなカレーライスに挑戦するという発想はユニークで楽しい。絵はコンテで力強く生き生きと描いてある。

NEWS

●図書館書庫増築工事起工式が行われる。

1月21日(木)、教育長、図書館長、工事関係者の列席により、図書館書庫増築工事起工式が行われた。新しい書庫は、30万冊収蔵可能で9月末に完成の予定である。

●親子読書活動関係者研究協議会の開催

島根県読書推進運動協議会は、2月3日、斐川町中央公民館、2月5日、浜田市勤労青少年ホームにおいて親子読書活動関係者研究協議会を開催した。両会場とも、親子読書実施市町村の担当者ならびに関係者が多数出席し、相互の交流をはかり熱心な研究協議を行った。

●親子読書通信「ふれあい」の発行

県読書推進運動協議会では親子読書活動の普及と

推進をはかるため「ふれあい」を年3回発行し、各モデル市町村及び各市町村教育委員会、その他各関係機関へ配付する。

●古文書取扱講習会の開催

1月22日(金)、県立図書館において各市町村教育委員会、公民館、図書館職員等を対象に、古文書の整理、保存、解読等の初步的知識の研修を行った。当日は、県下各地から64名の受講者があり盛況裏に終った。

●文化講演会の開催

昭和56年11月21日(土)、桜美林大学教授藤川正数博士を講師に「桃白鹿の学術的業績について」の講演会を開催した。